

第1章 伝説の地 吉野

重要文化財
蔵王権現立像
S 軀
平安～鎌倉時代
(12～13世紀)
奈良 大峯山寺



大峯山寺より
寺外初公開を
含む蔵王権現像が
一挙降臨！



ものきりじい 役行者倚像および二鬼坐像
室町時代(15世紀)
奈良 吉水神社

国宝 蔵王権現鏡像
平安時代 長保3年(1001)
東京 西新井大師總持寺



藤原道長が
未来に託した
祈りのタイムカプセル



国宝 藤原道長経筒
平安時代 寛弘4年(1007)
奈良 金峯神社

神々や仙人が住まう、神秘的で謎めいた場所として崇められてきた吉野。奈良の吉野から和歌山の熊野へと至る大峯の険しい山々は、山岳修行はじまりの地とされ、古人々々は特別な力や悟りを得ようと大自然の中に身を投じてきました。とくに吉野から大峯の山上ヶ岳は、「金峯山」と呼ばれ、弥勒が現れる未来のための黄金を秘める霊山として信仰を集めました。平安時代には天皇や藤原道長ら都の貴族がこぞって参詣し、さらに南北朝時代には後醍醐天皇が山内に政治の拠点を置いたように、各時代を通じて特別な場所でありつづけました。

1000年以上も前、道長は金峯山独自の尊格・蔵王権現に捧げるため、みずから経巻を書写して金峯山に埋納しました。近年、この紺紙金字経の断簡が金峯山寺で大量に発見され、大きな注目を集めました。このたび三か年をかけて保存修理が行われ、経巻の姿を取り戻しました。

本展では、道長自筆の国宝・紺紙金字経を修理後初公開するとともに、山岳修行の祖・役行者像や蔵王権現像、曼荼羅や鏡像、人々が祈りを捧げた神像や仏像など、自然と神仏への信仰が一体となって生み出されたこの地域ならではの宝物を一堂に展観します。

山が連なる大自然、そこに神と仏が宿り、やがては修験道の聖地、そして桜の名所ともなった吉野・大峯。本展はその歴史と魅力を余すところなくご紹介する展覧会です。

山岳修行の拠点!? 桜の名所!? かつてない規模で “聖地”の全貌に迫る!!

第2章

金峯山をめざして

第4章

後醍醐天皇 吉野へ

第5章

豊臣秀吉 華の宴

重要文化財 吉野花見図屏風 左隻(部分)
安土桃山時代(16世紀) 京都 細見美術館
【後期展示】



天下人・秀吉の
絢爛な
花見を描く

重要文化財 如意輪観音坐像
鎌倉時代
延慶3年(1310)
奈良 如意輪寺



後醍醐天皇も
祈りを捧げた
秘仏本尊



重要文化財 後醍醐天皇像
南北朝時代(14世紀)
神奈川 清浄光寺(遊行寺)
【前期展示】

第6章

近世・近代の 吉野と奈良

重要文化財 理源大師倚像
江戸時代(17世紀)
奈良 餅飯殿町財団



奈良の町の
山上講の本尊

第3章 ひろがる信仰世界

重要文化財

蔵王権現立像
鎌倉時代 嘉禄2年(1226)
奈良 如意輪寺



重要文化財
吉野曼荼羅
南北朝時代(14世紀)
奈良 西大寺
【前期展示】



信仰世界の見取り図
吉野の神仏大集合